

2. 輸送の概要

(1) 輸送人員の推移

- ・ 輸送人員は年々減少傾向が続いており、最近 10 年で約 35%減少している。沿線町村人口の人口推移と比較しても減少率が大きく、鉄道離れの傾向が見られる。
- ・ 券種別では定期の減少率が約 27%であるのに対して、定期外が約 41%になっており、定期外輸送の減少幅が大きい。
- ・ なお、定期は通学利用がほとんどを占めている。
- ・ トロッコ列車の利用が全利用の 1 割強を占めている。
- ・ 輸送密度を、1 列車あたりの平均乗車人員に換算すると、平成 17 年度実績では約 17 人となる。(1 日 28 本として計算。)

表 輸送人員の推移

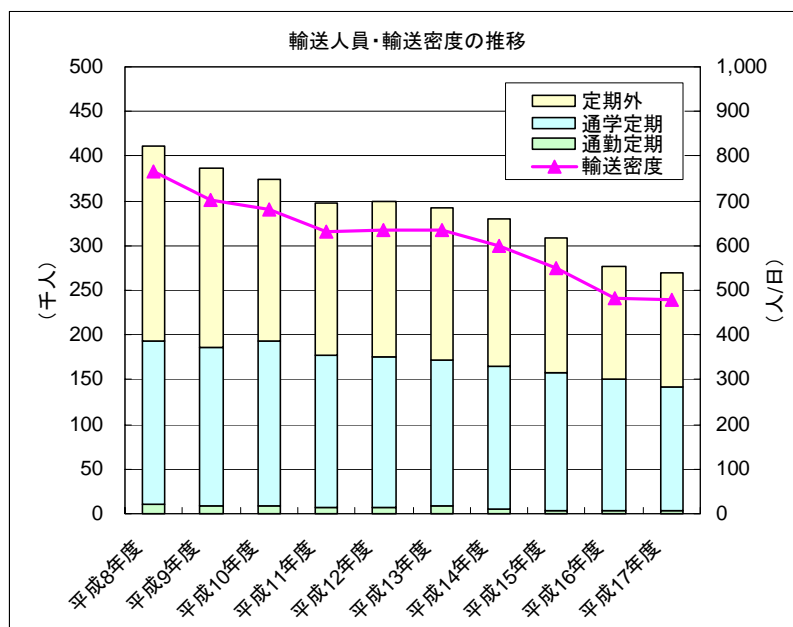
(単位:千人)

	定期			定期外		合計	減少率	輸送密度 (人/日)
	計	通勤	通学		うちトロッコ			
平成8年度	194	10	184	217	—	411		767
平成9年度	187	9	178	199	—	386	▲6.1%	703
平成10年度	194	8	186	180	—	374	▲3.1%	682
平成11年度	178	7	171	170	—	348	▲7.0%	631
平成12年度	175	7	168	174	—	349	0.3%	633
平成13年度	172	9	163	170	—	342	▲2.0%	633
平成14年度	165	6	159	165	—	330	▲3.5%	598
平成15年度	157	4	153	151	—	308	▲6.7%	548
平成16年度	150	3	147	126	32	276	▲10.4%	484
平成17年度	141	3	138	128	30	269	▲2.5%	480

(資料:南阿蘇鉄道、鉄道統計年報)

※トロッコ利用データは平成16,17年度のみ

※輸送密度:1日1kmあたりの平均通過人員を表した指標



(2) 団体輸送状況

- ・ 平成17年度では、団体利用者が全体の269千人の7%程度を占めている。
- ・ 月別に推移をみると、8月の3,188人をピークに5,10,11月に多くの団体利用があり、夏休み、ゴールデンウィーク、紅葉シーズンに合わせて利用されている様子が窺える。
- ・ また、トロッコ列車については、毎月1,000人以上の一定した団体利用がある。
- ・ 一方で、トロッコ列車が運休する12～2月における団体輸送の需要は限られている。

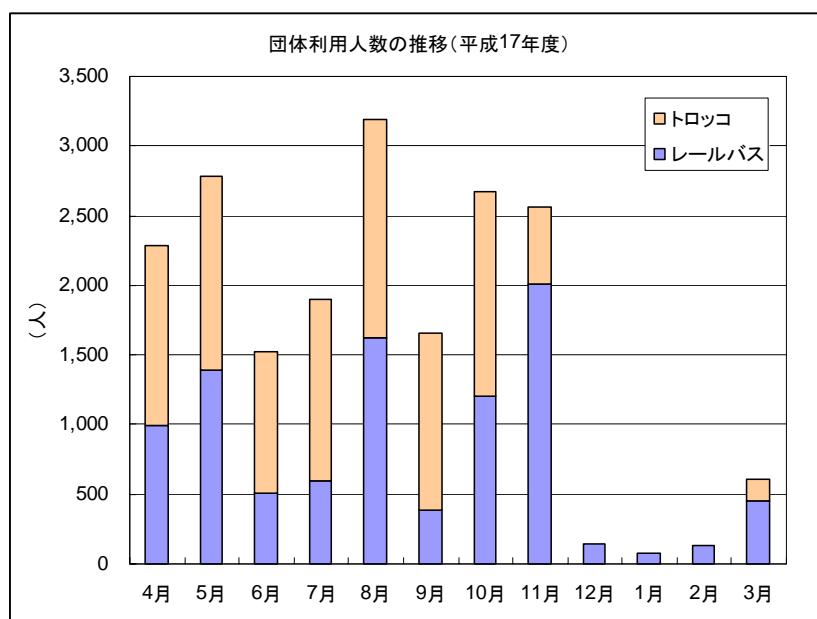
表 団体輸送の月別推移（平成17年度）

（単位：人）

平成17年度	レールバス	トロッコ	計
4月	996	1,285	2,281
5月	1,388	1,399	2,787
6月	511	1,014	1,525
7月	593	1,301	1,894
8月	1,628	1,560	3,188
9月	389	1,270	1,659
10月	1,207	1,460	2,667
11月	2,013	553	2,566
12月	149	—	149
1月	76	—	76
2月	133	—	133
3月	453	158	611
合計	9,536	10,000	19,536

（資料：南阿蘇鉄道）

※トロッコ列車は11月中旬～3月中旬まで運休



3. 経営の概要

(1) 営業損益の推移

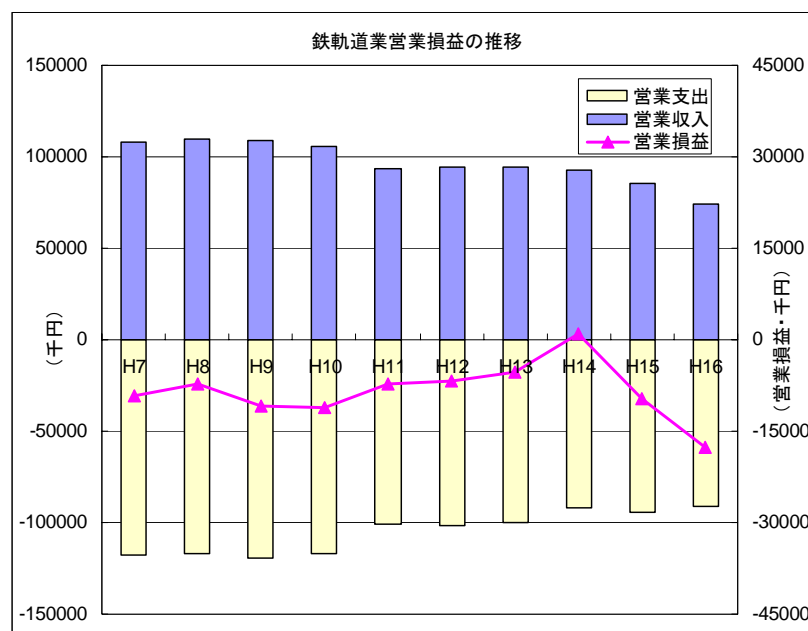
- ・ 営業収入は利用者数の減少傾向に比例しており、平成16年度では平成7年度から32%減少している。
- ・ 営業支出については、特に線路保存費、電路保存費について経費の削減が図られている。
- ・ 営業損益は、平成7年度から5百万円～11百万円の範囲で赤字で推移してきたが、平成14年にほぼ収支均衡が保たれた。しかし、平成16年度には17百万円の営業損失を計上している。

表 営業収支の推移

(単位:千円)

	営業収入	営業支出	営業損益	経費内訳										小計	人件費
				線路保存費	電路保存費	車両保存費	運転費	運輸費	保守管理費	輸送管理費	一般管理費	その他経費			
平成7年度	108,359	117,462	▲ 9,103	19,740	6,238	17,336	4,791	2,929	776	376	7,842	1,009	61,037	56,425	
平成8年度	109,377	116,643	▲ 7,266	18,060	8,105	14,831	5,484	3,782	531	343	7,731	1,007	59,874	56,769	
平成9年度	108,675	119,564	▲ 10,889	22,101	6,154	12,194	5,252	2,687	1,119	474	8,137	1,325	59,443	60,121	
平成10年度	105,996	117,080	▲ 11,084	20,875	6,045	8,863	7,319	2,933	465	135	6,568	989	54,192	62,888	
平成11年度	93,552	100,712	▲ 7,160	13,112	3,757	8,934	5,956	3,768	281	300	5,730	629	42,467	58,245	
平成12年度	94,442	101,225	▲ 6,783	9,655	4,255	13,667	5,801	3,695	1,296	220	4,283	216	43,088	58,137	
平成13年度	94,250	99,677	▲ 5,427	11,703	4,683	9,502	5,224	3,136	3,417	1,209	4,433	761	44,068	55,609	
平成14年度	92,564	91,549	1,015	9,844	4,774	9,884	4,737	1,576	2,162	523	3,811	686	37,997	53,552	
平成15年度	85,151	94,712	▲ 9,561	7,639	4,267	9,392	5,385	1,745	0	0	8,618	2,865	39,911	54,801	
平成16年度	73,819	91,457	▲ 17,638	7,401	4,217	10,198	6,310	2,157	2,060	310	450	3,979	37,082	54,375	

(資料:鉄道統計年報)



(2) 基金の状況

- ・ 南阿蘇鉄道には経営安定基金のほか、高森町、南阿蘇村（旧長陽村、旧久木野村及び旧白水村）及び山都町（旧蘇陽町）の住民から出資されている住民基金がある。
- ・ 営業損失に対しては経営安定基金を取り崩して補填している状況が続いており、運営発足当初の残高は合計約 5 億円であったものが、平成 17 年度現在では約 4 億円までに減少している。
- ・ 開業当初に導入した車両 3 両について、今後見込まれる車両更新への対応が課題である。

表 基金残高の状況

(単位:円)

	経営安定基金	住民基金	合計
昭和60年度	447,668,291	63,177,500	510,845,791
平成17年度	300,943,843	98,042,485	398,986,328

(資料:南阿蘇鉄道)